

年度 2010 学期 前期	曜日・校時 月曜日7校時	必修選択 必修	単位数 2
授業科目(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)		
対象年次(標準履修年次)	1年次	講義形態 講義	教室 (別指示)
対象学生(クラス等)	新入生全員	科目分類	共通基礎科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 宇都宮 譲 ・ 岡本 芳太郎 ・ 小山 久美子 ・ 仲井 幹也			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法: 1 クラス 15 名程度で構成し、原則として 1 名の教員が前期を通じて担当する</p> <p>授業到達目標: ① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</li> <li>2. 単位は 15 週(30 時間)で 2 単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</li> <li>3. 教養セミナーのテーマは、大学教育へのオリエンテーション機能を持つことなどを考慮し、学生との話し合いを重視する。</li> </ol>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	<p>教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。 (詳細は授業開始時に各担当教員から提示する。)</p>		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

※このシラバスは、夜間主コース教養セミナーの各クラス共通のシラバス概要です。

クラス毎のシラバスは、学務情報システム (NU-Web システム) で御覧ください。

2010年度 前期	曜日・校時 木6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100561001050 授業科目/(英語名)	●情報処理入門 Introduction to Computer Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] MS 1	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 情報処理科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鈴木 斉 / sigh@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館 631 / 095-820-6372 / 講義時間終了後、および、 sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。			
担当教員(オムニバス 科目等)	鈴木 斉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: コンピュータの操作を伴う演習を通し、機器の基本的な動作原理や特性について学習し、コンピュータの必要性の理解、および、専門課程での機器使用に対する準備を行う。 授業方法(学習指導法): 講義スタイルは第1回では座学、2~10回は演習を軸にコンピュータの基礎的な使い方の学習、第11回以降ではプログラミングの基礎的な考え方等を通して情報処理技術の応用方法について学習します。  到達目標: 1) コンピュータを使用しレポートの作成、発表、および、提出が行えるようになる。 2) コンピュータの基本的な動作原理を説明できるようになる。 3) 情報倫理を学ぶことで、出来ることと実行しても良いこととの区別・判断をつけられるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回、および、14回の授業で情報倫理について学習、および、今までに習得した知識の整理を行い、第2回~10回ではコンピュータの基本的な操作方法の習熟が目的となります。 第11回以降の回ではコンピュータの動作原理や情報処理が可能となる原理について理解を深め、今後の専門課程での講義を受講する際にコンピュータを効率的に使うための方法について学びます。 第16回の週に定期試験を行います。 第1回 ガイダンス(授業方法の説明)、セキュリティと情報倫理について学習します。 第2回 日本語入力、文書入力、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。 第3回 Webによる情報収集の方法、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。 第4回 Wordの使い方1(文書編集・レイアウト変更)について演習を交えて学習します。 第5回 Wordの使い方2(文書編集・レイアウト変更・図表作成)について演習を交えて学習します。 第6回 Excelの使い方1(基本操作・各種計算)について演習を交えて学習します。 第7回 Excelの使い方2(関数・グラフ作成)について演習を交えて学習します。 第8回 PowerPointの使い方1(基本操作・画像加工)について演習を交えて学習します。 第9回 PowerPointの使い方2(アニメーション・プレゼンテーション)について演習を交えて学習します。 第10回 PowerPointの使い方3(発表練習)について演習を交えて学習します。 第11回 情報科学の進歩、および、コンピュータ発達の歴史について学習します。 第12回 コンピュータ内での情報の表現方法、アルゴリズム、プログラミングについて学習します。 第13回 2進数と論理演算、ハードウェア(論理回路の基本)について学習します。 第14回 2進数での計算方法について演習を交えて学習します。 第15回 情報化社会の課題、情報セキュリティの観点から情報倫理について学習します。			
キーワード	コンピュータ操作、ソフトウェア (Word, Excel, PowerPoint) 情報倫理		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書は講義中に適宜紹介します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 40% (コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します)、 演習課題 50% (機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します)、 授業に対する参加状況 10% (作業指示に従わない場合や演習の妨害行為等を減点対象とします)		
受講要件(履修条件)	特にありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	情報リテラシー養成 情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。		
備考(準備学習等)	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。		

2010年度 前期	曜日・校時 金6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100562020050 授業科目/(英語名)	●健康・スポーツ科学 Science of Health and Sports		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 健・スポ科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中垣内 真樹 / gaichi@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部棟 4F 中垣内研究室 / 095-819-2089 / 月、火曜日 12:00~12:50、16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中垣内 真樹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p><b>ねらい:</b>健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。</p> <p><b>授業方法(学習指導法):</b>授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。</p> <p><b>到達目標:</b>生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。</p> <p>第1回 4月9日: 中垣内真樹; 運動と健康  第2回 4月16日: 青柳 潔; 生活習慣病とライフスタイル1  第3回 4月23日: 浦田秀子; 生活習慣病とライフスタイル2  第4回 4月30日: 管原正志; スポーツ活動と熱障害  第5回 5月7日: 田井村明博; 運動とエネルギー, 運動と筋肉  第6回 5月14日: 畑 孝幸; スポーツと健康の関係の考察  第7回 5月21日: 日高正博; スポーツの楽しみ方の工夫  第8回 5月28日: 山内正毅; 運動学習の心理学  第9回 6月4日: 西澤 昭; リラクゼーションの方法  第10回 6月11日: 中根秀之; 心の健康  第11回 6月18日: 川崎五郎; 歯・顎・口と健康  第12回 6月25日: 有吉紅也; AIDSと感染症  第13回 7月2日: 松坂誠應; 生涯健康(介護予防)1  第14回 7月9日: 井口茂; 生涯健康(介護予防)2  第15回 7月16日: 中垣内真樹; 総括</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂		
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計100% 毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、10点満点で評価し、15回の平均で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590001050 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーション I English Communication I		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] MS 1	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 吉村 宗司 / yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp / 非常勤講師控室 / 0.0 / 授業の前後 (19:30~19:40)			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 授業のねらい: 対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語) - 必要最低限の英語(米語) - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。 <b>授業方法(学習指導法):</b> まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、LL 機器をフルに駆使して英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。 <b>到達目標:</b> 本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。			
<b>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。 第1回 4月6日 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 4月13日 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』一分析結果の報告と対策法について 第3回 4月20日 プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /r/と/l/の発音 第4回 4月27日 子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説 第5回 5月11日 子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック 第6回 5月18日 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化 第7回 5月25日 連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+t/と/n/+d/による音変化 第8回 6月1日 『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第9回 6月8日 『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①) 第10回 6月15日 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』 第11回 6月22日 『同化』を聞き取るパターン(3)(/n/の後続音への影響)、On an Airplane(1) 第12回 6月29日 On an Airplane(2)/VTR 視聴/ニュースを聞き取る 第13回 7月6日 At an Airport(1)/洋楽を聞き取る 第14回 7月13日 At an Airport(2)/Taking a Taxi(1)/洋楽を聞き取る 第15回 7月28日 Taking a Taxi(2)/洋楽を聞き取る/まとめ 第16回目 8月3日 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。			
キーワード	音法		
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)		
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590001051 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーション I English Communication I		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] MS 1	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村 宗司 / yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp / 非常勤講師控室 / / 授業の前後 (19:30~19:40)			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 授業のねらい: 対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語) - 必要最低限の英語(米語) - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。 <b>授業方法(学習指導法):</b> まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、LL 機器をフルに駆使して英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。 <b>到達目標:</b> 本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。			
<b>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。 第1回 10月5日 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 10月12日 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』 - 分析結果の報告と対策法について 第3回 10月19日 プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /r/と/l/の発音 第4回 10月26日 子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説 第5回 11月2日 子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック 第6回 11月9日 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化 第7回 11月16日 連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n+/t/と/n+/d/による音変化 第8回 11月30日 『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第9回 12月7日 『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①) 第10回 12月14日 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』 第11回 12月21日 『同化』を聞き取るパターン(3)(/n/の後続音への影響)、On an Airplane(1) 第12回 1月11日 On an Airplane(2)/VTR 視聴/ニュースを聞き取る 第13回 1月18日 At an Airport(1)/洋楽を聞き取る 第14回 1月25日 At an Airport(2)/Taking a Taxi(1)/洋楽を聞き取る 第15回 2月1日 Taking a Taxi(2)/洋楽を聞き取る/まとめ 16回目 2月8日 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。			
キーワード	音法		
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)		
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590003050 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーションⅡ English Communication II		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部: 夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 白水 桂子 / kuwata@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所2階 / 随時またはEメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)	白水 桂子		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 基本語彙を用いて短い英作文を作る練習します。また、文法事項の確認やリスニングの練習も合わせて行い、英語運用能力の向上を目指します。  <b>授業方法(学習指導法):</b> 毎回、予習箇所を指示するので、テキストの練習問題を解答して来てください。解答の確認と文法事項等の解説をして、さらに発展問題をミニテスト形式ですることによって理解を深めていきます。  <b>到達目標:</b> 短い英文を作ることに慣れ、英語による表現力を向上させること。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 予習で指示した箇所の解答を指名し発表で確認していきます。また、別のプリントによる練習問題を用意しますので、5分から10分間で問題に解答し、確認していきます。 第1回 第1課 一語一句文 基本表現 発展表現 第2課 -er 基本表現 課題配布 第2回 課題の解答確認 第2課 -er 発展表現 第3課 -ing 基本表現 発展表現 課題配布 第3回 課題の解答確認 第4課 -ed 基本表現 発展表現 第5課 be+形容詞 基本表現 第4回 第4課のミニテスト 第5課の発展表現および課題配布 第5回 課題の解答確認 第6課 in, out 基本表現 発展表現 課題配布 第6回 課題の解答確認 第7課 on と off と at 基本表現 発展表現 課題配布 第7回 課題の解答確認 第8課 have 基本表現 発展表現 第8回 第8課のミニテスト 第9課 come 基本表現 発展表現 課題配布 第9回 課題の解答確認 第10課 go 基本表現 発展表現 課題配布 第10回 課題の解答確認 第11課 take 基本表現 発展表現 第11回 第11課のミニテスト 第12課 put 基本表現 発展表現 課題配布 第12回 課題の解答確認 第13課 give 基本表現 発展表現 課題配布 第13回 課題の解答確認 第14課 get 基本表現 発展表現 第14回 第14課のミニテスト 第15課 make 基本表現 発展表現 課題配布 第15回 課題の解答確認 全授業のまとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	鳥飼慎一郎(著)『イラストでイメージ: 基本語彙を使った英作文(Putting Common Verbs to Work for You)』朝日出版社		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況及び課題等 40% 小テストや期末試験 60% によって総合的に評価します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590003051 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーションⅡ English Communication II		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部・夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 丸山 真純 / masazumi@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所 312 / / 木 12:00-14:30			
担当教員(オムニバス科目等)	丸山 真純		
<p><b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b></p> <p><b>ねらい:</b> コミュニケーションのための英語運用力を文法面を無視することなく涵養する。</p> <p><b>授業方法(学習指導法):</b> 担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Work など、コミュニケーション活動を重視する</p> <p><b>到達目標:</b> 基本的な音声面の聞き取り、それに応じた発話を学ぶこと。また、そのための語彙や構文の理解。</p>			
<p><b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b></p> <p>教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。</p> <p>第1回 Introduction/Placement Test</p> <p>第2回 UNIT 1 Please call me Beth. SPEAKING Introducing yourself; introducing someone; checking information; exchanging personal information; saying hello and good-bye</p> <p>第3回 GRAMMAR Wh-questions and statements with be; questions: what, where, who, and how; yes/no questions and short answers with be; subject pronouns; possessive adjectives</p> <p>第4回 LISTENING Linked sounds Listening for names and countries</p> <p>第5回 UNIT 2 How do you spend your day? Quiz 1 SPEAKING Describing work and school; asking for and giving opinions; describing daily schedules</p> <p>第6回 GRAMMAR Simple present Wh-questions and statements; question: when; time expressions: at, in, on, around, early, late, until, before, and after</p> <p>第7回 LISTENING Listening to descriptions of jobs and daily schedules</p> <p>第8回 UNIT 3 How much is it? Quiz 2 SPEAKING Talking about prices; giving opinions; discussing preferences; making comparisons; buying and selling things</p> <p>第9回 GRAMMAR Demonstratives: this, that, these, those; one and ones; questions: how much and which; comparisons with adjectives</p> <p>第10回 LISTENING Sentence stress Listening to people shopping; listening for items, prices, and opinions</p> <p>第11回 UNIT 4 Do you like rap? Quiz 3 SPEAKING Talking about likes and dislikes; giving opinions; making invitations and excuses</p> <p>第12回 GRAMMAR Yes/no and Wh-questions with do; question: what kind; object pronouns; modal verb would; verb + to + verb</p> <p>第13回 LISTENING Intonation in questions Identifying musical styles; listening for likes and dislikes</p> <p>第14回 Catch-Up</p> <p>第15回 Review Quiz 4</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Interchange 1A, Cambridge University Press		
成績評価の方法・基準等	① 語彙・表現ミニテスト (30%) ; ② Quizzes (40%) ; ③ Class Participation コミュニケーション活動への参加など(30%)から評価します。(初回に詳しく説明します)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しようとすることを目標とする		
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。		

2010年度 前期	曜日・校時 木6	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590005050 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーションⅢ English Communication III		
対象年次 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部・夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 丸山 真純 masazumi@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所 312 / 木 12:00-14:30			
担当教員(オムニバス科目等)	丸山 真純		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: コミュニケーションのための英語運用力を文法面を無視することなく涵養する。 授業方法(学習指導法): 担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Work など、コミュニケーション活動を重視する 到達目標: 基本的な音声面の聞き取り、それに応じた発話を学ぶこと。また、そのための語彙や構文の理解。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。 第1回 Introduction/Placement Test 第2回 UNIT 9 What does she look like? SPEAKING Asking about and describing people's appearance; identifying people 第3回 GRAMMAR Questions for describing people: What look like, how old, how tall, how long, and what color; modifiers with participles and prepositions 第4回 LISTENING Contrastive stress Listening to descriptions of people; identifying people 第5回 UNIT 10 Have you ever ridden a camel? Quiz 1 SPEAKING Describing past experiences; exchanging information about past experiences and events 第6回 GRAMMAR Present perfect yes/no and Wh-questions, statements, and short answers with regular and irregular past participles; already and yet; present perfect vs. simple past; for and since 第7回 LISTENING Linked sounds Listening to descriptions of events 第8回 UNIT 11 It's a very exciting place! Quiz 2 SPEAKING Asking about and describing cities; asking for and giving suggestions; talking about travel and tourism 第9回 GRAMMAR Adverbs before adjectives; conjunctions: and, but, though, and however; modal verbs can and should 第10回 LISTENING Can't and shouldn't Listening to descriptions of cities and hometowns; listening for incorrect information 第11回 UNIT 12 It really works! Quiz 3 SPEAKING Talking about health problems; asking for and giving advice; making requests; asking for and giving suggestions 第12回 GRAMMAR Infinitive complements; modal verb should for suggestions; modal verbs can, could, and may for requests 第13回 LISTENING Reduction of to Listening to health problems and advice 第14回 Catch-Up 第15回 Review Quiz 4			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Interchange 1A, Cambridge University Press		
成績評価の方法・基準等	① 語彙・表現ミニテスト (30%) ; ② Quizzes (40%) ; ③ Class Participation コミュニケーション活動への参加など(30%)から評価します。(初回に詳しく説明します)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しようとすることを目標とする		
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。		

2010年度 前期	曜日・校時 木6	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590005051 授業科目/(英語名)	●英語コミュニケーションⅢ English Communication III		
対象年次 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新201	
対象学生(クラス等) 経済学部: 夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 白水 桂子 / kuwata@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所 2階 / / 随時またはEメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)	白水 桂子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p><b>ねらい:</b>世界遺産についてのDVDを視聴してリスニングの練習をします。また、語彙を増やし、文法事項の確認をして英文の読解能力の向上を目指します。</p> <p><b>授業方法(学習指導法):</b>予習の段階でDVDの視聴やCDを使ったリスニングによって、語彙やリスニング、内容把握の問題をして、授業に出席して下さい。リスニングの空所補充をした英文や練習問題は担当者の割当てを決めて、発表形式で内容を確認していきます。</p> <p><b>到達目標:</b>総合的な英語運用能力の向上。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
予習箇所を指示しますので、DVDの視聴やCDを聴くことでテキストの問題やリスニングの空所補充をして授業に出席して下さい。英文の内容や練習問題は担当者を決めて、発表形式で確認します。			
第1回 Unit 1 Statue of Liberty, USA DVDの視聴 CDによるリスニング 空所補充 1~4 第2回 Unit 1 英文の内容読解 6 Unit 2 Forbidden City, China リスニングの確認 第3回 Unit 2 1~6 Unit 3 Bath, England リスニングの確認 第4回 Unit 3 1~6 Unit 4 Canadian Rockies リスニングの確認 第5回 Unit 4 1~6 Unit 5 The Pyramids リスニングの確認 第6回 Unit 5 1~6 Unit 6 Ayutthaya, Thailand リスニングの確認 第7回 Unit 6 1~6 Unit 7 Edinburgh Castle, Scotland リスニングの確認 第8回 Unit 7 1~6 Unit 8 Machu Picchu, Peru リスニングの確認 第9回 Unit 8 1~6 Unit 9 Taj Mahal, India リスニングの確認 第10回 Unit 9 1~6 Unit 10 Te Wahipounamu, New Zealand リスニングの確認 第11回 Unit 10 1~6 Unit 11 Shirakawa-go, Japan リスニングの確認 第12回 Unit 11 1~6 Unit 12 Cappadocia, Turkey リスニングの確認 第13回 Unit 12 1~6 Unit 13 Blue Mountains, Australia リスニングの確認 第14回 Unit 13 1~6 Unit 14 Persepolis, Iran リスニングの確認 第15回 Unit 14 1~6 授業全体のまとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	染矢正一・フレッド・フェラシー(著)『DVDで学ぶ世界遺産 (World Heritage on DVD)』南雲堂		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況等 50% 期末試験(小テストを含む) 50% から総合的に評価します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 水7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590009050 授業科目/(英語名)	●総合英語 I Comprehensive English I		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 前川 智子 / t-mae@athena.ocn.ne.jp / 非常勤講師控え室 授業中及び授業の前後 10 分間			
担当教員(オムニバス科目等)	前川 智子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:英語の読解力、基本的な英文を書く力、音読力を高めることがねらいである。  授業方法(学習指導法):様々の人々が書いたエッセイを読み、内容を深く理解する。内容把握問題を解くと同時に、自分でも内容把握のための疑問文を作ることで、疑問文の形を学ぶ。更に、簡単な表現でエッセイ内容の要約を書く練習をしながら、基本的な英語構成法を学ぶ。本文の overlapping, shadowing を通して、英語らしい読み方を習得する。  到達目標:英語エッセイの内容を理解し、英語で的確に答えることができる。英語で疑問文を書くことができる。簡単な構文でエッセイの要点を書くことができる。 英語らしい発音・イントネーションで英文を読むことができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
第 1 回 4 月 7 日 Orientation / 疑問文の作り方、英語構成法 第 2 回 4 月 14 日 Ch.1: September 11 (語彙・読解問題、音読) / 疑問文の作り方、要約文の書き方 第 3 回 4 月 21 日 Ch.1(要約発表) / Ch.2: Beyond “September 11” (語彙・読解問題、音読) / 疑問文添削 第 4 回 5 月 12 日 Ch.2 (要約発表) / Ch.3: The Stone Walk (語彙・読解問題、音読) / 第 5 回 5 月 19 日 Ch.3 (要約発表) / Ch.4: students’ Power in the Stone Walk (語彙・読解問題、音読) / 第 6 回 5 月 26 日 Ch.4 (要約発表) / 疑問文添削 第 7 回 6 月 2 日 中間テスト / Review 第 8 回 6 月 9 日 Ch. 6:Japan and My Family (語彙・読解問題、音読) 第 9 回 6 月 16 日 Ch.6 (要約発表)/ Ch.7: The Japan that I love (語彙・読解問題、音読) 第 10 回 6 月 23 日 Ch.7 (要約発表) / Ch.8:Paper Sculpture (語彙・読解問題、音読) 第 11 回 6 月 30 日 Ch.8 (要約発表) (speaking) / Ch.9:The tour of the exhibition (語彙・読解問題、音読) 第 12 回 7 月 7 日 Ch.9 (要約発表) (speaking) / Ch.10:The Art of Memory (語彙・読解問題、音読) 第 13 回 7 月 14 日 Ch.10 (要約発表) (speaking) / Ch.11:Statues for Peace (語彙・読解問題、音読) 第 14 回 7 月 21 日 Ch.11 (要約発表) / Ch.12: Japanese Young Volunteers in America (語彙・読解問題、音読) 第 15 回 7 月 28 日 Ch.12 (要約発表) / 疑問文添削 / Review 第 16 回目 8 月 4 日 定期試験			
キーワード	読解力		
教科書・教材・参考書	「Working for Peace is Fun」 (Andrea LeBlank, 外著)		
成績評価の方法・基準等	期末テスト (40%) 中間テスト (20%) 毎週の課題提出(25%)提出課題は期限厳守のこと その他の宿題・授業中の活動 (15%)		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。正当な理由があっても、欠席が 4 回となると定期試験を受ける資格を失う。30 分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	読解力、要点をまとめて書く力(文法力)、語彙力、英語らしい発音・イントネーションが身に付く 毎回宿題 (語彙・読解問題、内容把握のための疑問文づくり、エッセイの要約など) を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。 「Ex.9:内容把握のための疑問文づくり」、及び、「Ex.11:エッセイの要約」 は、授業前にコピーを作り、一部を提出用、一部を本人用として準備しておくこと。		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590011050 授業科目/(英語名)	●総合英語Ⅱ Comprehensive English II		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山崎 有介 / pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp / 非常勤講師室 / / 授業終了時			
担当教員(オムニバス科目等)	山崎 有介		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> The New York Times から The Japan Times に至る英文による新聞記事を読み、英文読解力を養う。Reading、Listening、Vocabulary の総合的実力向上を目指す。 <b>授業方法(学習指導法):</b> Before you read, Words and Phrases, Summary により、本文を読む前の内容予想をしながら読解力を深める。 <b>到達目標:</b> 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 各課ごとに事前の Questions/Words and Phrases/Summary/Reading/ Exercises(Multiple Choice・True or False・Vocabulary)の順で行う。 第1回 オリエンテーション: 授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ 第2回 眠っているような田舎町、英語教育の中心に変身 Sleepy Wyoming town morphs into English-teaching hub 第3回 血液型で性格が決まるのか? Blood types - do they shape a personality or are they mere stereotypes? 第4回 若田宇宙飛行士、日本人初の長期滞在へ Wakata to become first Japanese to spend 3 months in space 第5回 大統領一家はアメリカ社会の縮図 A first family that looks like America—Obama-Robinson clan crosses ethnic, religious and linguistic lines 第6回 アラブ女性、空の上で職と自由を得る Arab women find a job, and freedom, at 35,000 feet 第7回 中間としてのまとめ(テストを含む) 第8回 日本の2作品 アカデミー賞受賞 『スラムドッグ』賞を総なめ Two Japanese films bag Oscars Slumdog sweeps awards 第9回 中国司法当局 ネットでの人身攻撃に対し規制強化 China court takes aim at vigilantism on Internet 第10回 2頭のロバを連れて移動図書館 4,800 bokks burros and one striving teacher 第11回 侍ジャパン WBC 連覇 親しき仲にも敵意あり Japan rules baseball world again—Beats S. Korea in 10-inning thriller to retain WBC crown Familiarity breeds respect 第12回 アイスランドで女性先導はじまる Women begin leading the way in Reykjavik 第13回 素人歌手 ネットで大騒ぎ Amateur singer becomes Internet sensation 第14回 ノーベル物理学賞3人同時受賞 日本人 ノーベル賞受賞記念講演 ThreePhysicists Share Nobel Prize Japan laureates deliver speeches at Nobel Lectures '08 第15回 全体のまとめ 第16回目 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	The Half-Edition of English through the News Media 2010 (Asahi Press)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、中間試験 30%、小試験 10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 木7	必修選択 必	単位数 1
授業コード 20100590013050 授業科目/(英語名)	●総合英語Ⅲ Comprehensive English III		
対象年次 2年, 3年, 4年	講義形態 演習科目	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 山崎 有介 / pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp / 非常勤講師室 / 授業終了時			
担当教員(オムニバス科目等)	山崎 有介		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p><b>ねらい:</b>異文化圏の言語としての英語をイラストを交えながら、その表現方法学び取り、文法的な力を養成することを目的とする。</p> <p><b>授業方法(学習指導法):</b>毎回テキストにあるイラストと日常英会話の表現を学習し、英語独特な表現をスピーキングを試してみたり、ライティングを試してみたりしながら、異文化でありながら、その慣用性に親しめるように指導する。</p> <p><b>到達目標:</b>無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。</p>			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>毎回テキストは一課ずつ進むものとする。各課の表現学習をさらに基本表現と発展表現に分け、Exercises を行うものとする。</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&amp;クイズ</p> <p>第2回 一語一句文：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第3回 語尾-er の表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第4回 語尾-ing の表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第5回 語尾-ed の表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第6回 be+形容詞の表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第7回 in, out を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第8回 中間としてのまとめ(テストを含む)</p> <p>第9回 on と off と at を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第10回 have を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第11回 come を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第12回 go を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第13回 take を用いた表現：基本表現&amp;発展表現</p> <p>第14回 put を用いた表現：基本表現&amp;発展表現(予備：give, get, make)</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>第16回目 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Putting Common Verbs to Work for You (Asahi Press)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、中間試験 30%、小試験 10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566001050 授業科目/(英語名)	●人間と文化(生命倫理学の諸問題) Humanity and Culture		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 新名 隆志 / wa_lion@yahoo.co.jp / 非常勤講師控室 / / 講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日) 6時限目開始前、非常勤講師室にて			
担当教員(オムニバス科目等)	新名 隆志		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 生命倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、具体的な議論の検討をしていく中でできるだけ視野を広げ、倫理的な思考法を少しでも身につけてほしい。自らの頭で考え、一から問い直し主張を構築すること、また他人の主張を冷静に吟味し、議論を積み重ねて行くこと、このような学問の基礎的なあり方を学んでほしい。  <b>授業方法(学習指導法):</b> 講義による授業を基本とする。ビデオ鑑賞もとり入れる。学生の意見や質問を聞き、それに答えるという時間もできるだけつくり、学生との双方向的な関係をつくりたい。 <b>到達目標:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理的な社会問題の基本的な論点を理解する。</li> <li>・常識や自分の感覚をいったん疑い、広い視野で自由に思考できるようになる。</li> <li>・講師や他の学生との対話・議論を通して、論理的な批判力と主張を構築する力を身につける。</li> </ul>			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b>  生命倫理学、特に人の死に関わる諸問題をテーマとして取り上げる。具体的には脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死といったテーマを扱う予定である。医療技術・科学技術の進展により、現代人は人間生命のあり方に深く介入できるようになった。これは一方で利益を生む側面がありながら、一方で我々の基本的な生命観や人生観に大きな影響を与える。人間生命に対して事実上できることをどこまで社会的に認めるか、ここには大きな意見の対立があり、それは基本的な生命観や思想の対立・ずれに由来することがしばしばである。本講義では上述のような具体的諸問題についての議論を検討しながら、人間生命について基本的な考え方の次元から再考し、こうした諸問題についての社会的合意形成とルール作りの道筋を学生と共に模索していきたい。  第1回 10月1日 講義のガイダンス・イントロダクション テーマの紹介 履修上の注意 成績評価の説明など 第2回 10月8日 脳死・臓器移植(1) 具体的諸問題の概説 脳死の定義 第3回 10月15日 脳死・臓器移植(2) 脳死判定基準、臓器移植法の問題点 第4回 10月22日 脳死・臓器移植(3) 脳死は人の死か 第5回 10月29日 脳死・臓器移植(4) 脳死は人の死か 第6回 11月5日 脳死・臓器移植(5) 臓器移植法の諸問題 第7回 11月12日 脳死・臓器移植(6) 臓器移植法の諸問題 第8回 11月26日 脳死・臓器移植(7) 臓器提供制度の再検討 まとめ 第9回 12月3日 安楽死・尊厳死(1) 基本知識の説明 第10回 12月10日 安楽死・尊厳死(2) 安楽死・尊厳死の実態を知る 第11回 12月17日 安楽死・尊厳死(3) 代表的な積極的安楽死反対論の検討 第12回 12月24日 安楽死・尊厳死(4) 死の自己決定権の問題点 第13回 1月7日 安楽死・尊厳死(5) 死の自己決定権の問題点 幸福な死 第14回 1月21日 安楽死・尊厳死(6) 終末期患者の心理的問題 緩和ケアとの関連 第15回 1月28日 まとめ・補足・定期試験についての説明 第16回 2月4日 定期試験			
<b>キーワード</b>			
教科書・教材・参考書	参考書:『よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学』、篠原駿一郎・石橋孝明編、ナカニシヤ出版 その他、授業で適宜紹介する		
成績評価の方法・基準等	出席点あるいは簡単なレポート(30%)と学期末の定期試験(70%)により評価する予定。 状況により変更がありうるが、評価方法については必ず授業中に説明する。		
受講要件(履修条件)	携帯電話の使用、私語など、他の学生や講師にとって授業妨害になる行為をしないこと。 自らの思考力や議論力を高めるため、活気ある授業を楽しむため、また、大きな誤解をしたまま試験に臨まないためにも、できるだけ積極的に質問や発言を行うことが望ましい。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 月6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003050 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(音楽と歴史) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部 夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田中 邦夫 / tana-k@nagasaki-u.ac.jp / 音楽棟3階301号 / 095-819-2353 / メールで相談します			
担当教員(オムニバス科目等)	田中 邦夫		
<p><b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b></p> <p><b>ねらい:</b>芸術性の高いクラシック音楽を通し、知的活動の動機づけを高めるとともに、文化的レベルアップの向上に努める。</p> <p><b>授業方法(学習指導法):</b>講義を中心とし、CD・DVDを利用する。</p> <p><b>到達目標:</b>授業において鑑賞した曲の旋律を理解できることと、作曲者の作品を覚えること。</p>			
<p><b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b></p> <p>第1回 1回目 授業の趣旨説明・具体的な進め方・計画性の説明。  第2回 2回目 ウィーン音楽について説明  第3回 3回目 ウィーン・フィル「ニューイヤーコンサート」  第4回 4回目 ウィーン・フィル「ニューイヤーコンサート」  第5回 5回目 ハイドン作曲「交響曲」  第6回 6回目 シューベルト作曲 交響曲「未完成」  第7回 7回目 モーツァルト作曲 「セレナード・ピアノソナタ」  第8回 8回目 モーツァルト作曲 交響曲「25・29番」  第9回 9回目 モーツァルト作曲 交響曲「40・41番」  第10回 10回目 モーツァルト作曲 歌劇「魔笛」  第11回 11回目 モーツァルト作曲 歌劇「フィガロの結婚」  第12回 12回目 ベートーベン作曲 ピアノソナタ集  第13回 13回目 ベートーヴェン作曲 交響曲「第3番英雄」  第14回 14回目 ベートーヴェン作曲 交響曲「運命・田園」  第15回 15回目 ベートーヴェン作曲 交響曲「第9番合唱」</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	プリントを用意する		
成績評価の方法・基準等	筆記テスト・レポート提出		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005050 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(東洋史入門) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松本 睦樹 / mutuki@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館5階 / 095-820-6358 / 毎週金曜 17:30-18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	松本 睦樹		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 一般に大学の教養科目として学ぶ「歴史」と言えば、日本史や西洋史、あるいは中国史であった。本講義ではそうではなく、インド史を取り上げる。その際、西洋を基準とする時代区分論を用いることの適否、西洋との接触、カーストなどの問題を中心に据える。この講義によって、地域が異なれば歴史像が根本的に異なるという事実を改めて学んでいただきたい。 <b>授業方法(学習指導法):</b> まず教官が板書を活用した口述の講義を60分間行い、次に受講者がその内容を30分間でレポートにまとめ、最後に提出する、と言う独自の方法がとられている。 <b>到達目標:</b> 歴史認識とは何かを理解し、その上でアジア史把握の視点をしっかり設定できること。			
<b>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 東洋の定義から始め、東洋におけるインドの位置づけを理解した上で、インド史の重要ないくつかの局面を項目別に学ぶ。なお、3回の小テストのうち2回分は第14回までの講義に組み入れる。			
第1回 4月6日 講義の方法とルール、評価方法などについての説明 第2回 4月13日 東洋とは 第3回 4月20日 日本での「東洋史学」 第4回 4月27日 歴史学と時代区分論 第5回 5月11日 インドの地理と民族 第6回 5月18日 カーストとは 第7回 5月25日 古代アリア社会 第8回 6月1日 仏陀の時代 第9回 6月8日 3つの統一王朝 第10回 6月15日 「中世」の設定 第11回 6月22日 ムスリムによる支配 第12回 6月29日 ムガルの性格 第13回 7月6日 ヨーロッパ人の見たインド 第14回 7月13日 ヨーロッパ人のインド進出 第15回 7月20日 まとめと小テスト			
キーワード	東洋史、インド史、社会経済史		
教科書・教材・参考書	使用しない		
成績評価の方法・基準等	講義時間中に合わせて3回の小テストを実施する。その成績および毎回提出のレポートなどを総合的に勘案して成績を算定する。なお、定期試験は実施しない。レポートについては、見本を配布し、また回収したレポートは小テスト前に一括返却する。さらに、小テストは返却し、かつ採点のポイントなどを口頭で説明する。		
受講要件(履修条件)	世界史についての知識を有することが望ましいが、必要条件ではない。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	(1) 第1回の講義では本講義に関するルールや評価計算の詳細など重要な点を説明するので、注意すること。 (2) 本講義では許容範囲を超えての遅刻は認めない。遅刻の許容範囲については、最初の講義時に受講者と相談の上で定める。		

2010年度 後期	曜日・校時 金7	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566007050 授業科目/(英語名)	●法と政治 (日本の税制) Law and Politics		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部 夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
<b>担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー</b> 角田 享介 / kakuda@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部東南アジア研究所 318号室 / 095-820-6331 / 講義開始前および終了後。その他の時間については事前にEメールで予約を取ってください。			
担当教員(オムニバス科目等)	角田 享介		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法) / 授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 税金は我々国民の生活に密接に関わっており、どのような課税が行われるかについては国民の議論を通じて法で定められています。本講義では、日本の税制を学ぶことを通じて、経済・社会における法の意義・役割、そして法が制定される政治プロセスについて学習していきます。  <b>授業方法(学習指導法):</b> 講義形式  <b>到達目標:</b> 日本の税制の現状、課題、検討されている改革の方向性について理解し、法と政治が自分の生活とどのようにかかわっているのかをイメージできるようになることを目的とします。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b>  第1回 10月1日 インTRODクシヨN 第2回 10月8日 総論 第3回 10月15日 日本の税制の概要 第4回 10月22日 個人所得課税(1) 第5回 10月29日 個人所得課税(2) 第6回 11月5日 法人課税 第7回 11月12日 資産課税 第8回 11月26日 消費課税(1) 第9回 12月3日 消費課税(2) 第10回 12月10日 消費課税(3) 第11回 12月17日 納税環境整備(1) 第12回 12月24日 納税環境整備(2) 第13回 1月7日 税制改正の動向(1) 第14回 1月21日 税制改正の動向(2) 第15回 1月28日 授業の総括 第16回 2月4日: 定期試験			
キーワード	税金、税法、税制改正		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)、授業中に実施する小レポート(3回、各5%)、授業への参加状況・貢献度(15%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度前期	曜日・校時 金7	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009050 授業科目/(英語名)	●経済と経営(経済学入門) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 総合経済コース1年次から	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤田 渉 / wfujita@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所 204号室 / / 金曜日 17:30~17:50			
担当教員(オムニバス科目等)	藤田 渉		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> ①経済学的なものの見方について知識を取得する。 ②経済学の用語、論理についての知識を取得する。 ③経済学の考え方や、現実社会の読み解き方について知識を取得する。 <b>授業方法(学習指導法):</b> テキストおよび配布資料に沿って講義形式で行う。毎回の課題提出で理解を深める。 <b>到達目標:</b> ①経済学を学ぶにあたっての足がかりを形成する。 ②基本的な経済学用語と使われ方について理解する。 ③経済学の考え方や、現実社会の事象について一応の対応ができる。			
<b>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 人々のあれこれと欲しがらる欲望に対して、限りのあるモノをどのような用途にどのように振り分けたらよいか、ということが経済学の考え方の第一歩です。ここから始まり、モノや労働の価格というものは何を意味するのか、また消費者としての自分たち、また労働力としての自分たちは、大きな経済社会の中で企業や政府と並んで、どのように考えるべきなのかを理解して行きます。さらに、マクロ経済学、ミクロ経済学といった進んだ考え方に触れて行きます。 なお担当教員は、本年度は同じ経済学部夜間主1年次の学生に対し、学部導入科目「現代経済概論」を担当しています。全学教育と経済学部専門教育でカリキュラムは異なりますが、同じ担当者による初年度生に対する経済学の導入科目・入門科目です。本年度はこの2つの科目を有機的に利用します  第1回 インTRODクシヨン、経済学とは何か、何が経済問題か? 一般教養としての経済学の重要性 第2回 現代の経済学とマクロ経済学の目指すこと 第3回 GDPを理解する(マクロの経済指標) 第4回 GDPを理解する(三面等価) 第5回 GDPを理解する(GDPはどう決まるか) 第6回 GDPを理解する(モデルを用いて理解する①) 第7回 GDPを理解する(名目と実質) 第8回 GDPを理解する(モデルを用いて理解する②) 第9回 中間総括(小テスト・課題提出などを含む) 第10回 金融について(貨幣の役割) 第11回 金融について(金融の仕組みと信用創造) 第12回 財政について(財政の機能) 第13回 経済のグローバル化(貿易の利益、為替レート) 第14回 理解と復習(モデルを用いて理解する③) 第15回 総括			
キーワード	マクロ経済学、GDP、金融、財政、グローバル経済		
教科書・教材・参考書	教科書: 浅井和美・石黒順子『グラフィック 経済学』新世社、2007年 (学部導入科目「現代経済概論」と共用します)		
成績評価の方法・基準等	期末試験 70%、課題提出・小テスト・授業への積極的な参加など 30% ただし課題等で一定の得点に満たなかった場合は期末試験の受験を認めない。		
受講要件(履修条件)	特に無し		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学教育科目・人文社会科学科目・経済と経営に配置された科目 長崎大学の教育上の目的を達成するため、大学教育における基本的教養を会得させ併せて専門の幅広い基盤を理解させる。		
備考(準備学習等)	特に無し		

2010年度 後期	曜日・校時 水6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566011050 授業科目/(英語名)	●日本国憲法(個人と国家) The Constitution of Japan		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 夜間主	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井田 洋子 / smile@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館 506 / 095-820-6401 / 木曜日 17:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	井田 洋子		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 現日本国憲法が掲げる普遍的原理としての基本的人権の尊重・国民主権・権力分立と、独自の価値としての戦争放棄及び象徴天皇制とを、それぞれ、具体的事例の検証や他国の憲法との比較を交えながら考察する。そうした作業を通して、現日本国憲法の存在意義のみならず、憲法そのものの存在意義を探求することを目指す。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 講義形式。授業内容に関するレジュメ(毎回)及び関連する判例(適宜)を配布する。また、教員側の一方的授業にならないよう、定期的なレポート提出によって、学生側に意見を述べる機会を保障する。 <b>到達目標:</b> 受講生が、①憲法の存在を身近なものとして捉えること、②さまざまな憲法問題を自身の問題として考えること、③近い将来、政治的課題として挙がってくるであろう憲法改正論議に対して、主権者として主体的に関わろうする意識を喚起すること、の3点を目指す。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> (概要) 最初に、憲法を学ぶ上で欠かせない、国家・基本的人権・国民主権・民主主義等の基本概念について、一通り説明を行う。その後、人権問題、国家権力や戦争放棄を巡る問題等、多岐に亘る憲法問題の中から、毎回ひとつずつテーマを選び、そのテーマに関して、国内外の具体的事例を用いながら考察を深めていく。 第1回 10月6日 憲法とはなにか。 基本概念の説明—法治国家・基本的人権・国民主権・民主主義等 第2回 10月13日 日本国憲法の制定過程—前身としての明治憲法から日本国憲法制定へと至る過程 第3回 10月20日 象徴天皇制と国民主権 第4回 10月27日 法の下での平等1—国民主権と選挙制度 第5回 11月10日 法の下での平等2—男女平等 第6回 11月17日 信教の自由—個人の信教の自由と正教分離原則 第7回 11月24日 表現の自由1—表現の自由の意義及び限界 第8回 12月1日 表現の自由2—マス・メディアの表現の自由 第9回 12月8日 表現の自由3—プライバシーの権利その他 第10回 12月15日 人身の自由—刑事手続・裁判員制度 第11回 12月22日 社会権—生存権・環境権 第12回 1月12日 外国人の人権 第13回 1月19日 国家権力の構造—特に立法権と行政権との関係を中心に 第14回 1月26日 戦争放棄 第15回 2月2日 まとめ—今後の展望 第16回目平成23年2月9日定期試験			
キーワード	個人・国家・民主主義・基本的人権		
教科書・教材・参考書	教科書: 大隈義和・大江正昭編『憲法学へのいざない』青林書院。 参考書: 『セレクト六法』岩波書店、『コンパクト六法』有斐閣等、いずれかの六法書。		
成績評価の方法・基準等	レポート30%、定期試験70%の総合評価。なお、出席率が低い場合には、定期試験受験資格を失うものとする。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木7	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567003050 授業科目/(英語名)	●生体の機能 (からだが正常に働く仕組み) Basic Human Physiology		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部・夜間主コース	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 岡田 幸雄 / okada@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 A棟4階403号室 / 095-819-7637 / 水曜日 16:00-18:00, 教員研究室 またはメールにて			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田 幸雄		
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標			
ねらい: 身体を構成する組織と器官の正常な機能を理解する。			
授業方法(学習指導法): 液晶プロジェクターや板書で授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。			
到達目標: 神経、脳、筋肉、心臓、肺、腎臓、感覚器、消化器および骨の働きを理解できる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
第1回 10月7日 生理学序説 第2回 10月14日 細胞間のシグナル伝達 第3回 10月21日 細胞の興奮現象 第4回 10月28日 筋収縮と細胞運動 第5回 11月4日 反射と運動 第6回 11月11日 感覚総論と体性感覚 第7回 11月18日 視覚と聴覚 第8回 11月25日 嗅覚と味覚 第9回 12月2日 脳の働き 第10回 12月9日 循環(心臓と血管の働き) 第11回 12月16日 呼吸(肺の働き) 第12回 1月6日 排泄(腎臓の働き) 第13回 1月13日 食物の消化・吸収 第14回 1月20日 口の機能 第15回 1月27日 カルシウム代謝			
キーワード	神経、感覚、運動、血液循環、呼吸、排泄、		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況(45%)とレポートの結果(55%)を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度前期	曜日・校時 木7	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567005050 授業科目/(英語名)	●生命の科学 (生きることへの生物学的基礎) Life Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 森 望 / morinosm@net.nagasaki-u.ac.jp / 医学部基礎研究棟3F 343号室 / 819-7019(医学部内線 7019) / 火曜日 16:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	森 望, 吉浦 孝一郎, 伊藤 潔, 増崎 英明, 篠原 一之, 花田 裕子, 大石 和代, 由井 克之, 中園 一郎, 小澤 寛樹, 佐々木 均, 蒔田 直昌, 下川 功		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 生命の成り立ち、人間としての成長、周囲の人および環境との対応、そして老いについて、学び、考える。 授業方法(学習指導法): 主に医学部(医学科および保険学科)の教授が中心のオムニバス方式。 到達目標: 生命について、特にその本質、人間の成長の観点、社会との関係性の中でその意義を理解する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回(4/8)いのち: 生きること/生命科学概論 森望(医学科/神経解剖) 第2回(4/15)つながる: 遺伝子/生命の糸 吉浦孝一郎(医学科/分子遺伝学) 第3回(4/22) いきている: 生化学/細胞の中の命 伊藤敬(医学科/生化学) 第4回(5/6) うまれる: 誕生/命のはじまり 増崎英明(医学科/産婦人科) 第5回(5/13) はぐくむ: 母子関係 篠原一之(医学科/神経生理) 第6回(5/20)かわる: 発生/分化/発達 森望(医学科/神経解剖) 第7回(5/27)そだてる: 親子関係 花田裕子(保健学科/臨床看護) 第8回(6/3)いたわる: 男女関係 大石和代(保健学科/母子看護) 第9回(6/10)めぐる: 血液と循環 蒔田直昌(医学科/内臓生理) 第10回(6/17)まもる: 環境と免疫/自己識別 由井克之(医学科/免疫学) 第11回(6/24)なおす: くすりと生命 佐々木均(附属病院/薬剤部) 第12回(7/1) ゆれる: 命の迷い/精神疾患 小澤寛樹(医学科/精神科) 第13回(7/8) さぐる: 事件/犯罪と生命 中園一郎(医学科/法医学) 第14回(7/15) おいる: 老化と寿命 下川功(医学科/病理学) 第15回(7/22) いきぬく: 総括/まとめ 森望(医学科/神経解剖)			
キーワード	生命、細胞、生体、成長、老化		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況(40%)とレポート(60%)の結果を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 水6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100568005050 授業科目/(英語名)	●化学の基礎 (炭化水素の化学) Introduction to Chemistry		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 経済学部 夜間主コース		科目分類 自然科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 石橋 郁人 / fumito@nagasaki-u.ac.jp / 水産学部新館1階 / 095-819-2833 / 随時 (事前に連絡しておく方が好ましい)			
担当教員(オムニバス科目等)	石橋 郁人		
<b>授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 授業のねらい: 炭素化合物の化学に関する講義・演習により、有機化学の基礎を修得すること。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 講義を基本に、重要な項目については随時演習を行う。 <b>到達目標:</b> 炭素化合物の分類法、命名法、性質、(立体)構造、反応などについて理解すること。			
<b>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> <p>有機化学の基本概念および最も基礎的な有機化合物である炭化水素の化学(構造、命名法、性質、反応等)に関する講義と演習を行う。</p> <p>第1回: 有機化学の基本概念            化学結合 (原始の電子構造、化学結合、混成軌道など)  第2回:            "    "  第3回:            "    "  第4回:            "    酸と塩基、有機化合物の分類と命名  第5回:            "    "  第6回: 有機化合物の立体構造        立体異性体の分類、立体配座異性体、  第7回            "    シクロヘキサンの立体構造  第8回:            "    立体配置異性体 (光学活性、キラリティー、R,S表示法)  第9回:            "    立体配置異性体 (ジアステオマー、ラセミ体とメソ体、光学活性と生理活性)  第10回: アルカンとシクロアルカン    性質、製法、反応等  第11回: アルケンとアルキン        性質、製法、反応  第12回:            "    "  第13回: 芳香族化合物                構造、性質、求電子置換反応  第14回:            "    "  第15回: 予備  第16回: 期末試験  但し、演習等により理解度を確認しながら講義を行うので、計画通りに進行しないこともある。</p>			
<b>キーワード</b>	アルカン・アルケン・アルキン・芳香族化合物・命名法・有機反応・立体構造・光学異性		
<b>教科書・教材・参考書</b>	参考書: 「ベーシック有機化学」、山口良平・山本行男・田村類 共著、化学同人 学部で指定の有機化学のテキストがあれば、その使用を勧める (上記参考書を購入する必要はない)。 テキスト、参考書については第1回目の授業で説明するので、事前に購入しないこと。		
<b>成績評価の方法・基準等</b>	定期試験 (100%) にて行う		
<b>受講要件(履修条件)</b>			
<b>本科目の位置づけ/学習・教育目標</b>			
<b>備考(準備学習等)</b>			

2010年度 後期	曜日・校時 木6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100568009050 授業科目/(英語名)	●地球と宇宙の科学 (海と陸から見る地球の姿) Earth and Space Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 1~4年次 (経済学部夜間主コース)	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 万田 敦昌 / manda@nagasaki-u.ac.jp / 水産学部 A104 / / 木曜 5限			
担当教員(オムニバス科目等)	万田 敦昌, 松岡 数充, 近藤 寛, 長岡 信治, 馬越 孝道		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 地球の自然環境の形成要因を理解し, 説明できるようにすること。  <b>授業方法(学習指導法):</b> 板書, パワーポイント等を併用して解説する。  <b>到達目標:</b> 地球の自然環境の形成要因を論理的に記述できる。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b>  第1回 10/7 大気と海洋の循環 (万田) 第2回 10/14 熱帯域の大気海洋相互作用 (万田) 第3回 10/21 中緯度の大気海洋相互作用 (万田) 第4回 10/28 地球上に生命はどのようにして生まれたのか (松岡) 第5回 11/4 生物がもたらした環境変化 (遊離酸素の放出) (松岡) 第6回 11/11 複雑な生物への道 (松岡) 第7回 11/18 プレート運動と地震の関係 (馬越) 第8回 11/25 地震発生のしくみと予知 (馬越) 第9回 12/2 巨大地震の脅威 (馬越) 第10回 12/9 岩石の風化と運搬作用、堆積物と堆積作用 (近藤) 第11回 12/16 地層と堆積岩および堆積構造 (近藤) 第12回 1/6 化石の役割と種類 (近藤) 第13回 1/13 プレートテクトニクスと火山 (長岡) 第14回 1/20 マグマと火山 (長岡) 第15回 1/27 火山の噴火と噴出物 (長岡)			
キーワード	大気, 海洋, 地震, 火山, 岩石		
教科書・教材・参考書	第1回から3回の講義については, 資料(pdfファイルで配布予定)を <a href="http://sites.google.com/site/classaofd/Home">http://sites.google.com/site/classaofd/Home</a> よりダウンロードし, 印刷したものを講義時に持参すること。第4回以降については, 各担当教員が講義資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	レポート課題で評価する(100%)		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	人間の経済活動は自然環境の変化に大きく影響を受けるため, 経済学を学ぶ上での基礎的な教養として本講義を位置づけることができる。 地球の自然環境の形成要因を論理的に記述できる。		
備考(準備学習等)	<a href="http://sites.google.com/site/classaofd/Home">http://sites.google.com/site/classaofd/Home</a>		

2010年度 後期	曜日・校時 火6	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100569020750 授業科目/(英語名)	●各国資本主義の諸相 ( Various Aspects of World Economy )		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [経] 新101	
対象学生(クラス等) 夜間主の1~4年生	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 高倉 泰夫 / takay@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部5階509号室 / 095-820-6395 / 金曜日4限			
担当教員(オムニバス科目等)	高倉 泰夫		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 世界経済はいま、サブプライム問題に始まった経済変動の下で、大きな変動期にある。そのなかで、日本経済の行く先を考えるためにも、アジア経済とともに世界経済の現況の理解がぜひとも必要である。  <b>授業方法(学習指導法):</b> 教員によるオムニバス形式の講義である。それぞれまとまった講義となっているので、集中して聞くこと。なお、教員によっては質疑応答の時間を設けることがある。  <b>到達目標:</b> 上記の狙いに示した日本経済とアジア経済を含む世界経済の動向について認識を深める。			
<b>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b>  第1週 (10/5)(高倉泰夫) 全体の構図。授業での評価の仕方。 講師陣の間で順序の入れ替えがあり得る。 第2週 (10/12)(成田真樹子) 最近のヨーロッパ経済の動向[1]。 ” 第3週 (10/19)(成田真樹子) ” [2]。 ” 第4週 (10/26)(成田真樹子) ” [3]。 ” 第5週 (11/2)(井田洋子) フランスの最近の社会動向。 ” 第6週 (11/9)(薛 軍) 最近の中国経済の動向について[1]。 ” 第7週 (11/16)(薛 軍) ” [2]。 ” 第8週 (11/30)(薛 軍) ” [3]。 ” 第9週 (12/7)(藤野哲也) BRIC s ,とくにはブラジル経済について。 ” 第10週 (12/14)(吉田省三) イタリア経済と協同組合[1]。 ” 第11週 (12/21)(吉田省三) ” [2]。 ” 第12週 (1/11)(吉田省三) ” [3]。 ” 第13週 (1/18)(立山柚彦) 南アジアの経済について[1]。 ” 第14週 (1/25)(立山柚彦) ” [2]。 ” 第15週 (2/1)(井手啓二) 中国経済の特徴。 ”			
キーワード	世界経済の動向に注目すること(新聞などで)。		
教科書・教材・参考書	各講師が配布するものによる。		
成績評価の方法・基準等	出席(これだけでは点にならない)と毎回のレポートによる。(レポート100%評価)		
受講要件(履修条件)	出席してなければレポートが書けない(その場で書いて出す)。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	今後の経済学などの学習にとっての基礎になる講義である。講義の内容を理解して要領よくまとめる練習にもなるであろう。		
備考(準備学習等)			